

授業科目	保育実践研究 I		授業形態	演習	単位数	1	単位
担当者	大関嘉成、高橋寛、小森谷一朗、木村重子						
ナンバリング	E52S167	開講時期	2 年次後期	授業時間数	30 時間	授業回数	15 回
必修・選択	—		実務経験のある教員による授業科目			該当する*	
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1)理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。 (2)専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。						○
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1)基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。						○
	(2)実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。						
	(3)学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。						
授業の概要・方法	映像視聴やグループディスカッション、PC を利用しての教材作成等の演習を通して、専門職としての実習を振り返り、保育教材の開発と実践をより深くより広範囲に検討していく。身の回りにある材料が、幼児のどんな能力を育てられるか、さらには幼児教育者の仕事とは何かについて、これまでの学習をまとめていく過程の作業となる。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教材開発の意義を説明できる。</li> <li>・適切な実践記録を書くことができる。</li> <li>・保育実践を分析し、評価できる。</li> <li>・「自分で考え、実践できる能力」(2)「実践について理解したり、分析したりすることができる」を身につける。</li> </ul>						
授業計画	第 1 回	テーマ	イントロダクションー実践と評価ー (担当 大関)				
		内容	実施済みの教育実習・保育実習の実習体験と学びを基に、その評価と実践研究の枠組について学ぶ。				
		授業時間外学修	予習： シラバスを熟読する。 復習： 授業内容を復習し、要点や疑問点をまとめる。				
	第 2 回	テーマ	子どもが夢中になる遊びを考える (1)ー室外での遊び①ー (担当 小森谷)*				
		内容	屋外における子どもが夢中になる主体的な遊びにはどのような遊びがあるかを考え、その遊びのアイデアや展開について探っていく。				
	第 3 回	授業時間外学修	予習： 教育実習等の経験から、屋外ではどのような遊びがあったかを振り返る。 復習： 授業内容を復習し、要点をまとめ、今後の実践に活かせるようにする。				
		テーマ	子どもが夢中になる遊びを考える (2)ー室外での遊び②ー (担当 小森谷)*				
	第 4 回	内容	屋外における子どもが夢中になる主体的な遊びにはどのような遊びがあるかを考え、その遊びのアイデアや展開について探っていく。				
		授業時間外学修	予習： 教育実習等の経験から、屋外ではどのような遊びがあったかを振り返る。 復習： 授業内容を復習し、要点をまとめ、今後の実践に活かせるようにする。				
	第 4 回	テーマ	子どもが夢中になる遊びを考える (3)ー室内での遊び①ー (担当 小森谷)*				
		内容	室内における子どもが夢中になる主体的な遊びにはどのような遊びがあるかを考え、その遊びのアイデアや展開について探っていく。				

	授業時間外 学修	予習： 教育実習等の経験から、屋内ではどのような遊びがあったかを振り返る。 復習： 授業内容を復習し、要点をまとめ、今後の実践に活かせるようにする。
第 5 回	テーマ	子どもが夢中になる遊びを考える（４）－室内での遊び②－ （担当 小森谷）*
	内容	室内における子どもが夢中になる主体的な遊びにはどのような遊びがあるかを考え、その遊びのアイディアや展開について探っていく。
	授業時間外 学修	予習： 教育実習等の経験から、屋内ではどのような遊びがあったかを振り返る。 復習： 授業内容を復習し、要点をまとめ、今後の実践に活かせるようにする。
第 6 回	テーマ	身近な素材で遊ぼう（１） （担当 木村）*
	内容	廃材その他の身近な材料から保育教材を作成し、実習体験に基づきながら、その可能性を探る。
	授業時間外 学修	予習： 連絡事項を確認し、準備物をそろえる。 復習： 授業内容を復習し、要点や疑問点をまとめる。
第 7 回	テーマ	身近な素材で遊ぼう（２） （担当 木村）*
	内容	引き続き廃材その他の身近な材料から保育教材を作成し、実習体験に基づきながら、その可能性を探る。
	授業時間外 学修	予習： 連絡事項を確認し、準備物をそろえる。 復習： 授業内容を復習し、要点や疑問点をまとめる。
第 8 回	テーマ	保育実践における留意点 （担当 木村）*
	内容	実習体験に関連付けながら、就業後の保育実践における留意点について学ぶ。
	授業時間外 学修	予習： 実習体験を振り返り、その学びをまとめる。 復習： 授業内容を復習し、要点や疑問点をまとめる。
第 9 回	テーマ	コミュニケーションを楽しもう① （担当 高橋）*
	内容	乳児期のノン・バーバルでの交流を知る。
	授業時間外 学修	予習： 実習体験を振り返り、その学びをまとめる。 復習： 授業内容を復習し、要点や疑問点をまとめる。
第 10 回	テーマ	コミュニケーションを楽しもう② （担当 高橋）*
	内容	幼児期の「ごっこ遊び」の重要性を知る。
	授業時間外 学修	予習： 実習体験を振り返り、その学びをまとめる。 復習： 授業内容を復習し、要点や疑問点をまとめる。
第 11 回	テーマ	コミュニケーションを楽しもう③ （担当 高橋）*
	内容	手遊び歌・わらべ歌の面白さを知る。
	授業時間外 学修	予習： 実習体験を振り返り、その学びをまとめる。 復習： 授業内容を復習し、要点や疑問点をまとめる。
第 12 回	テーマ	コミュニケーションを楽しもう④ （担当 高橋）*
	内容	身体表現を伴った交流を体験する。
	授業時間外 学修	予習： 実習体験を振り返り、その学びをまとめる。 復習： 授業内容を復習し、要点や疑問点をまとめる。
第 13	テーマ 内容	実践記録に基づく評価 （担当 大関） 行動描写法による記録、映像による記録、日誌、ドキュメンテーションの各種の記録に

	回		基づく評価を行い、その可能性と限界を学ぶ。	
	授業時間外 学修	予習： 復習：	実習での自身の反省を振り返り、その根拠をまとめる。 授業内容を復習し、要点や疑問点をまとめる。	
	第 14 回	テーマ	実践記録からみる遊びの考察	(担当 大関)
		内容	実践記録に基づく評価からさらに遊びにフォーカスし、以降の環境構成を考察する。	
	授業時間外 学修	予習： 復習：	実習での保育者の環境構成と幼児の遊びを関連付けてまとめる。 授業内容を復習し、要点や疑問点をまとめる。	
	第 15 回	テーマ	総括	(担当 大関)
内容		授業全般を振り返り、その確認を行うと共に、保育職就業後の保育実践者としての在り方について考察する。		
授業時間外 学修		予習： 復習：	実践とその捉え方に関する既習内容を振り返り、要点をまとめる。 授業内容を振り返り、疑問点を確認する。	
教科書・テキスト	適宜、資料を配布する。			
参考書・参考資料等	保育方法の実践的理解 (久富陽子・梅田優子 萌文書林)			
成績評価の方法・基準	担当者4名の評価の総計による。各領域理解の程度(60%)、「自分で考え、実践できる能力」(2)獲得の程度(10%)、授業参加度(30%)で評価する。			
課題に対する フィードバックの方法	提出物に関しては採点の後、講評を行う。			
授業時間外学修	予習(各授業回約30分)、復習(各授業回約30分)として、授業計画で示された内容を実施する。 レポートが課された際は資料を見直し、内容を理解した上で、関連事項を調べてまとめる。(約15時間)			
備考	履修者数が多い場合、抽選になる場合がある。また、教室の都合上、実施回が変更になる場合がある。 *実務経験のある教員(一部)による授業科目である。 小森谷は、公立小学校で16年、公立幼稚園で6年教諭として業務に従事した実務経験をもつ。教諭としての実務経験を生かして、保育方法の学習について具体的な事例を挙げながら授業を行う。			
連絡先(質問等)	オフィスアワー 大関：水曜日 12時25分～12時50分 高橋：月曜日 12時25分～12時50分 小森谷：水曜日 12時25分～12時50分 木村：(授業時にアナウンスを行う。) その他、授業前後に教室にて質問を受け付ける。			

授業科目	保育実践研究Ⅱ [R.4 入学者]			授業形態	演習	単位数	1 単位
担当者	高橋寛						
ナンバリング	E51S168	開講時期	1 年次後期	授業時間数	30 時間	授業回数	15 回
必修・選択	—			実務経験のある教員による授業科目			該当する
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1)理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。						○
	(2)専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。						
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1)基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。						○
	(2)実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。						
	(3)学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。						
授業の概要・方法	身体表現を伴った唱歌・童謡などの習得を通して、老人や幼児という異世代の文化観に触れる。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>異世代の文化観(主に歌)とその背景を理解し、それを用いたコミュニケーション能力を獲得する。</li> <li>「フィードバック能力」(1)「自分の実践について検証し、課題を見つけることができる」を身につける。</li> </ul>						
内容と授業計画	第1回	テーマ	コミュニケーション①				
		内容	音楽とコミュニケーションの関連性について				
		授業時間外学修	予習：シラバスを熟読する 復習：授業内容を振り返り、要点や疑問点をまとめる				
	第2回	テーマ	コミュニケーション②				
		内容	歌唱や身体表現における呼吸法の重要性について				
		授業時間外学修	予習：前回授業時に出された課題をこなしておく 復習：授業内容を振り返り、要点や疑問点をまとめる				
	第3回	テーマ	身体表現①				
		内容	脱力体操と発声とリズム運動①				
		授業時間外学修	予習：前回授業時に出された課題をこなしておく 復習：授業内容を振り返り、要点や疑問点をまとめる				
	第4回	テーマ	身体表現②				
		内容	脱力体操と発声とリズム運動②				
		授業時間外学修	予習：前回授業時に出された課題をこなしておく 復習：授業内容を振り返り、要点や疑問点をまとめる				
	第5回	テーマ	身体表現③				
		内容	脱力体操と発声とリズム運動③				
		授業時間外学修	予習：前回授業時に出された課題をこなしておく 復習：授業内容を振り返り、要点や疑問点をまとめる				
	第6回	テーマ	身体表現④				
		内容	脱力体操と発声とリズム運動④				
		授業時間外学修	予習：前回授業時に出された課題をこなしておく				

	学修	復習：授業内容を振り返り、要点や疑問点をまとめる
第7回	テーマ	こどものたちの歌の変遷①
	内容	伝承歌とわらべ歌
	授業時間外学修	予習：前回授業時に出された課題をこなしておく 前回授業時に出された課題をこなしておく 復習：授業内容を振り返り、要点や疑問点をまとめる
第8回	テーマ	こどもたちの歌の変遷②
	内容	唱歌(明治)
	授業時間外学修	予習：前回授業時に出された課題をこなしておく 復習：授業内容を振り返り、要点や疑問点をまとめる
第9回	テーマ	こどもたちの歌の変遷③
	内容	童謡(大正～昭和)
	授業時間外学修	予習：前回授業時に出された課題をこなしておく 復習：授業内容を振り返り、要点や疑問点をまとめる
第10回	テーマ	こどもたちの歌の変遷④
	内容	こどもの歌(昭和後半～平成～令和)
	授業時間外学修	予習： 復習：授業内容を振り返り、要点や疑問点をまとめる
第11回	テーマ	こどもたちの歌の変遷⑤
	内容	第8～10回の内容と時代変遷の関連性
	授業時間外学修	予習：前回授業時に出された課題をこなしておく 復習：授業内容を振り返り、要点や疑問点をまとめる
第12回	テーマ	人間オーケストラの実践①
	内容	自分たちの声でアカペラ・コーラスを楽しむ
	授業時間外学修	予習：前回授業時に出された課題をこなしておく 復習：授業内容を振り返り、要点や疑問点をまとめる
第13回	テーマ	人間オーケストラの実践②
	内容	体をパーカッションとして使い音楽を膨らませる
	授業時間外学修	予習：前回授業時に出された課題をこなしておく 復習：授業内容を振り返り、要点や疑問点をまとめる
第14回	テーマ	人間オーケストラの実践③
	内容	身体表現としての人間オーケストラを楽しむ
	授業時間外学修	予習：前回授業時に出された課題をこなしておく 復習：授業内容を振り返り、要点や疑問点をまとめる
第15回	テーマ	音楽のもたらす人間形成への影響
	内容	仲間の表現方法を相互鑑賞し、フィードバックし合う
	授業時間外学修	予習：前回授業時に出された課題をこなしておく 復習：授業内容を振り返り、要点や疑問点をまとめる
第16回		まとめと振り返り

教科書・テキスト	「シニア世代の思い出ソング」ドレミ楽譜出版。その他、プリントは必要な時に随時配布する。
参考書・参考資料等	「人間オーケストラ 体は楽器だ」いかだ社、「野口体操・からだに貞く」柏樹社 ほか
成績評価の方法・基準	授業後に提出するレポートや、課題の実演などから、授業への参加度(20%)、音楽のもたらす人間形成への重要性の理解度(10%)、音楽と呼吸によるコミュニケーション時の重要性の理解度(30%)、時代と音楽の変遷の関連性への理解度(20%)、ノンバーバル・コミュニケーション時の身体表現の重要性の理解度と「フィードバック能力」(1)獲得の程度(20%)から評価する。
課題に対するフィードバックの方法	提出されたレポートへは、次回の授業にて開設する。必要に応じて、朱を入れて学生に返却する。
授業時間外学修	予習(30分)、復習(30分)を目安に授業計画に示した内容を実施する。
備考	実務経験のある教員の授業である。 舞台演出や、コンサートでの歌唱などでえた知見を演習で伝授する。
連絡先(質問等)	オフィスアワー 月曜日 12時25分～12時50分

授業科目	保育実践研究Ⅱ [R.3 入学者]		授業形態	演習	単位数	1 単位		
担当者	小田幹雄、城山萌々、木村重子							
ナンバリング	E51S168	開講時期	2 年次後期	授業時間数	30 時間	授業回数	15 回	
必修・選択	-			実務経験のある教員による授業科目		該当しない		
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1)理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。							○
	(2)専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。							
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1)基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。							○
	(2)実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。							
	(3)学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。							
授業の概要・方法	運動、音楽、造形などの表現活動をコミュニケーションの手段として、福祉施設や幼稚園でのワークショップを企画、実践する。ワークショップの実践後は、個人の振り返り、グループでの振り返りを行い、活動の課題について共有する。また、自分が作成したドキュメンテーションを用いて、実践報告を行い、実践、記録、発表はループリックによる自己評価を行う。全ての記録をポートフォリオとして、まとめる。							
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションの手段として、運動、音楽、造形などの表現活動を活かすことができる。</li> <li>・他者のワークショップを観察し、自己のワークショップの実践へ活かすことができる。</li> <li>・ドキュメンテーションを他者に伝わるように作成する。</li> <li>・ワークショップの企画、実践、振り返りを通じて、「学び続け、成長し続ける能力」(1)「自分の実践について振り返り、より良い実践を目指して主体的に学ぶことができる」を身につける。</li> </ul>							
授業計画	第1回	テーマ	オリエンテーション-ワークショップとは-					
		内容	ワークショップとはどんな活動なのか、昨年度の写真を見ながら考える。授業内容を確認する。					
		授業時間外学修	予習：シラバスを読む。 復習：ワークショップについて、考える。					
	第2回	テーマ	福祉施設でのワークショップ実践計画 1					
		内容	福祉施設でのワークショップの内容を計画する。					
		授業時間外学修	予習：ワークショップの内容を考え、材料や道具などを準備する。 復習：ポートフォリオを作成する。					
	第3回	テーマ	福祉施設でのワークショップ実践計画 2					
		内容	福祉施設でのワークショップの内容を計画する。					
		授業時間外学修	予習：ワークショップの内容を考え、材料や道具などを準備する。 復習：ポートフォリオを作成する。					
	第4回	テーマ	福祉施設でのワークショップ実践計画 3					
		内容	福祉施設でのワークショップの内容を計画する。					
		授業時間外学修	予習：ワークショップの内容を考え、材料や道具などを準備する。 復習：ポートフォリオを作成する。					

第 5 回	テーマ	福祉施設でのワークショップ実践計画 4
	内 容	福祉施設でのワークショップの内容を計画する。
	授業時間外 学修	予習：ワークショップの内容を考え、材料や道具などを準備する。 復習：ポートフォリオを作成する。
第 6 回	テーマ	障害児（者）に対するワークショップ実践 1
	内 容	ワークショップを実践する。
	授業時間外 学修	予習：ワークショップでの役割分担、準備物の確認をする。 復習：ポートフォリオを作成する。
第 7 回	テーマ	障害児（者）に対するワークショップ実践 2
	内 容	ワークショップを実践する。
	授業時間外 学修	予習：ワークショップでの役割分担、準備物の確認をする。 復習：ポートフォリオを作成する。
第 8 回	テーマ	ワークショップの振り返り
	内 容	前回のワークショップの写真を使い、ドキュメンテーションを作成する。記録をもとに活動内容を振り返り、発表する。
	授業時間外 学修	予習：ワークショップでの反省点を確認しておく。 復習：ポートフォリオを作成する。
第 9 回	テーマ	幼稚園でのワークショップ実践計画 1
	内 容	幼稚園でのワークショップの内容を計画する。
	授業時間外 学修	予習：ワークショップの内容を考え、材料や道具などを準備する。 復習：ポートフォリオを作成する。
第 10 回	テーマ	幼稚園でのワークショップ実践計画 2
	内 容	幼稚園でのワークショップの内容を計画する。
	授業時間外 学修	予習：ワークショップの内容を考え、材料や道具などを準備する。 復習：ポートフォリオを作成する。
第 11 回	テーマ	幼稚園でのワークショップ実践計画 3
	内 容	幼稚園でのワークショップの内容を計画する。
	授業時間外 学修	予習：ワークショップの内容を考え、材料や道具などを準備する。 復習：ポートフォリオを作成する。
第 12 回	テーマ	幼稚園でのワークショップ実践計画 4
	内 容	幼稚園でのワークショップの内容を計画する。
	授業時間外 学修	予習：ワークショップの内容を考え、材料や道具などを準備する。 復習：ポートフォリオを作成する。
第 13 回	テーマ	幼児に対するワークショップ実践 1
	内 容	ワークショップを実践する。
	授業時間外 学修	予習：ワークショップでの役割分担、準備物の確認をする。 復習：ポートフォリオを作成する。
第 14 回	テーマ	幼児に対するワークショップ実践 2
	内 容	ワークショップを実践する。

	回	授業時間外 学修	予習：ワークショップでの役割分担、準備物の確認をする。 復習：ポートフォリオを作成する。
	第 15 回	テーマ	ワークショップの振り返り
		内容	前回のワークショップの写真を使い、ドキュメンテーションを作成する。記録をもとに活動内容を振り返り、発表する。
	回	授業時間外 学修	予習：ワークショップでの反省点を確認しておく。 復習：ポートフォリオを作成する。
教科書・テキスト	昨年度の授業で作成されたポートフォリオ		
参考書・参考資料等	ワークショップとまなび1(荻宿俊文(編集) 高木光太郎(編集) 佐伯胖(編集) 東京大学出版会) また、授業中に適宜資料を配布する。		
成績評価の方法・基準	ワークショップの企画、準備、実践、ドキュメンテーション、ポートフォリオ、振り返りレポートからワークショップを企画し実践する基礎的な知識、技術の獲得の程度(35%)「学び続け、成長し続ける能力」(1)獲得の程度(35%)、授業参加度(30%)で評価する。		
課題に対するフィードバックの方法	ドキュメンテーションを使った実践報告のグループワークに教員がコメントすることでフィードバックを行う。		
授業時間外学修	ポートフォリオを制作する。(約9時間) 上記を除いた予習(各授業回約15分)、復習(各授業回約15分)、として、授業計画で示された内容を実施する。(約6時間)		
備考	必要に応じて、授業内容を変更する場合がある。		
連絡先(質問等)	オフィスアワー 小田：火曜日 12時25分～12時50分 城山：水曜日 12時25分～12時50分 木村：(授業時にアナウンスを行う。) その他、授業前後およびアポイントにより質問を受け付ける。		

授業科目	保育実践研究Ⅲ		授業形態	演習	単位数	1	単位
担当者	高橋寛、高桑秀郎、花田嘉雄、白崎直季、城山萌々、木村重子						
ナンバリング	E52S169	開講時期	2年次前期 (集中)	授業時間数	30 時間	授業回数	15 回
必修・選択	—		実務経験のある教員による授業科目			該当する	
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1)理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。						
	(2)専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。						○
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1)基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。						○
	(2)実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。						
	(3)学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。						
授業の概要・方法	<p>将来の幼児教育者（保育者）として社会に出たら即戦力となるように、経験を積み、多くの初対面の幼児や保護者が喜ぶ「遊び・遊び場」を企画・運営し、その利用者たちとのコミュニケーションの有効な手段として、音楽や身体表現を活用できるようになることを目指す。少人数のグループによる発表や、それに対する教員、学生たちからの相互発信の評価や、幼児や保護者たちからの評価をもとに、フィードバックが自身の成長の糧となることに気付く。</p> <p>また地元メディア（山形新聞・山形放送）主催の子育て応援イベント「すこやか2022」への遊び場の企画・運営に学生が主体的に関わることで、少子化時代における貴重な保育体験（例年2日間で2万人の家族連れが来場する）をし、子どもに主体的な発散の場を提供することにより、地域連携・貢献を実践し、地域の課題を解決する方法を模索し発見し学ぶ。</p>						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自ら「子どもの遊びに関連する企画」を立て実践することにより、企画・運営する能力を培う。</li> <li>・初対面の幼児同士の遊び方を知り、また彼らとその保護者への関わり方を体験し、学ぶ。</li> <li>・学外の大規模なイベントの舞台での「ショウタイムの発表」を体験し、表現者として成長する。</li> <li>・幼児の活動の実際を、体験を通して理解し、学ぶ。</li> <li>・子育て応援イベント「すこやか2022」への遊び場の企画・運営で学生が中心的役割を果たすことで、地域の課題を認識し、その解決方法を体験的に学ぶ。</li> <li>・「フィードバック能力」(3)「実践中に瞬時に判断し、修正や改善をすることができる」を身につける。</li> </ul>						
授業計画		テーマ	授業全体の内容についての講義とグループ・ミーティング				
		内容	授業の目的と実践が、自分たちの成長に有効であることを理解する。				
	第1回	授業時間外学修	予習： シラバスを熟読する。 幼児教育者（保育者）として、幼児や保護者にとってどのような存在でありたいかを、確認しておく。 復習： 授業内容を振り返り、要点や疑問点を整理する。 参加意識を高め、「子どもの遊び」について1年次で学んだ多くの経験や知識を、確認し、見直しておく。				
	第2回	テーマ	音楽的活動（歌う、踊る）の実践法				
	内容	1年次で学んだ音楽的活動（歌う、踊る）の、その良さを再確認する。					

	回		現代の子どもに必要な遊びは何かを考え、企画する。
	授業時間外 学修	予習： シラバスを熟読し、前回の授業内容を反芻する。 1年次に学習した関連する内容を見直しておく。 復習： 授業内容を振り返り、要点や義民店を整理する。 音楽的活動（歌う、踊る）に不可欠な心身の要素について再確認する。	
第 3 回	テーマ	美術（遊具の素材の研究）	
	内 容	遊具に適した素材を探し、研究する。	
	授業時間外 学修	予習： シラバスを熟読し、前回の授業内容を反芻する。 日常生活の身近なもので、遊びに使いそうな素材を探してみる。 復習： 授業内容を振り返り、要点や疑問点を整理する。 非日常的なものからも、遊具の素材に適したものを探してみる。	
第 4 回	テーマ	身体表現（ごっこ遊び）の実践法	
	内 容	幼児の「ごっこ遊び」を疑似体験し、その面白さを確認する。	
	授業時間外 学修	予習： シラバスを熟読し、前回の授業内容を反芻する。 1年次に学習した関連する内容を見直しておく。 復習： 授業内容を振り返り、要点や疑問点を整理する。 初対面の幼児同士での遊び方をイメージしてみる。	
第 5 回	テーマ	舞台での発表会の企画方法とグループ別ミーティング	
	内 容	行事に伴う発表会を企画する方法をグループ毎に模索し、相互発表・評価する。	
	授業時間外 学修	予習： シラバスを熟読し、前回の授業内容を反芻する。 1年次に学習した関連する内容を見直しておく。 復習： 授業内容を振り返り、要点や疑問点を整理する。 フィードバックを受け、他のグループの企画からも学ぶ。	
第 6 回	テーマ	幼児の遊びの考察（遊具等の制作）①	
	内 容	企画に相応しい様々な遊具を考案し制作する。	
	授業時間外 学修	予習： シラバスを熟読し、前回の授業内容を反芻する。 1年次に学習した関連する内容を見直しておく。 復習： 授業内容を振り返り、要点や疑問点を整理する。 遊具の安全性についても確認しておく。	
第 7 回	テーマ	幼児の遊びの考察（遊具等の制作）②	
	内 容	企画に相応しい様々な遊具を考案し制作する。	
	授業時間外 学修	予習： シラバスを熟読し、前回の授業内容を反芻する。 1年次に学習した関連する内容を見直しておく。 復習： 授業内容を振り返り、要点や疑問点を整理する。 幼児が遊具をどう扱うであろうか、シミュレーションしてみる。	
第 8 回	テーマ	幼児の遊びの考察（遊具等の制作）③	
	内 容	企画に相応しい様々な遊具を考案し制作する	
	授業時間外 学修	予習： シラバスを熟読し、前回の授業内容を反芻する。 1年次に学習した関連する内容を見直しておく。	

		<p>復習： 授業内容を振り返り、要点や疑問点を整理する。</p> <p>別会場へ移動・搬入する際の、遊具の取り扱いについても考えておく。</p>
第9回	テーマ	ショウタイムの発表へ向けての打ち合わせ①
	内容	1年次に学んだ音楽表現方法を復習し、グループ別にショウタイムを創る。
	授業時間外学修	<p>予習： シラバスを熟読し、前回の授業内容を反芻する。</p> <p>1年次に学習した関連する内容を見直しておく。</p> <p>復習： 授業内容を振り返り、要点や疑問点を整理する。</p> <p>初対面の幼児・保護者が観客であることをイメージしてみる。</p>
第10回	テーマ	ショウタイムの発表へ向けての打ち合わせ②
	内容	1年次に学んだ音楽表現方法を復習し、グループ別にショウタイムを創る。
	授業時間外学修	<p>予習： シラバスを熟読し、前回の授業内容を反芻する。</p> <p>手遊びや歌、人間オーケストラ等の要素も加える。</p> <p>復習： 授業内容を振り返り、要点や疑問点を整理する。</p> <p>グループ毎に内容を吟味しておく。</p>
第11回	テーマ	実践（学外のイベント会場にて）①
	内容	初対面の幼児や保護者が多数利用する会場で「遊び・遊び場」を企画・運営する。
	授業時間外学修	<p>予習： シラバスを熟読し、前回の授業内容を反芻する。</p> <p>遊具などを分割して、学外のイベント会場へ移設する。</p> <p>復習： 辞意船内容を振り返り、要点や疑問点、改善点などを整理する。</p> <p>改善点は速やかに実施し、次回への備えとする。</p>
第12回	テーマ	実践（学外のイベント会場にて）②
	内容	<p>地元メディア主催の子育て応援イベント「すこやか2022」における遊び場の企画・運営に主体的に参加し、各日約1万人の家族連れをもてなし、子どもに主体的な発散の場を提供することにより、その保育実践が大きな地域連携・貢献となることを体験・認識する。併せて、地域の課題を解決する方法を模索し、発見し体験的に学ぶ。</p> <p>初対面の幼児や保護者が多数利用する会場で「遊び・遊び場」を企画・運営する。</p>
	授業時間外学修	<p>予習： 前回の実践内容を反芻する。</p> <p>前回から改善された遊具を、利用者の視点から再点検しておく。</p> <p>復習： 実践内容を振り返り、要点や疑問点、改善点などを整理する。</p> <p>自分たちの企画・運営力や、アナログなコミュニケーション能力がうまく機能した場面を記憶・記録し、成長の糧とする。</p>
第13回	テーマ	ショウタイムの発表の実践と実際（学外のイベント会場にて）①
	内容	<p>地元メディア主催の子育て応援イベント「すこやか2022」における遊び場の企画・運営に主体的に参加し、各日約1万人の家族連れをもてなし、子どもに主体的な発散の場を提供することにより、その保育実践が大きな地域連携・貢献となることを体験・認識する。併せて、地域の課題を解決する方法を模索し、発見し体験的に学ぶ。</p> <p>企画したショウタイムを初対面の幼児・保護者に披露し、フィードバックを受ける。</p>
	授業時間外学修	<p>予習： シラバスを熟読し、前回の授業内容を反芻する。</p> <p>前述の9～10回目の授業での打ち合わせを復習しておく。</p>

			<p>復習： 実践内容を振り返り、要点や疑問点、改善点を整理する。 フィードバックを受けての改善点を、理解し、善処する。</p>
第14回	テーマ	ショウタイムの発表の実践と実際（学外のイベント会場にて）②	
	内容	企画したショウタイムを初対面の幼児・保護者に披露し、フィードバックを受ける。	
第15回	授業時間外学修	<p>予習： 前回の実践内容を反芻する。 改善点を活かし、マン・ウォッチングして初対面の聴衆の特性をつかみ、演劇的な要素も加えてみる。</p> <p>復習： 実践内容を振り返り、要点や疑問点、改善点を整理する。 様々なフィードバックを受けて、新たな企画・発表のヒントとしていく。</p>	
	テーマ	まとめ（レポート等による合評会）	
第15回	内容	イベント会場での利用者・観客からの評価等を受けて「遊び・遊び場」企画への糧とする。	
	授業時間外学修	<p>予習： 実践内容を振り返り、反芻する。 全体の実践記録に目を通しておく</p> <p>復習： 合評会での、教員や学生同士の相互発信による評価を受け入れる。 その上で、要点や疑問点、改善点を整理し、より良い「遊び・遊び場」を創るヒントとしていく。</p>	
教科書・テキスト	<p>こどもの歌ベストテン（ドレミ出版）ほか 1年次に履修した科目の教科書を、必要に応じて活用する。</p>		
参考書・参考資料等	<p>1年次に履修した科目の中から、該当する資料を必要に応じて活用する。</p>		
成績評価の方法・基準	<p>レポートや毎回の演習の様子やレポートの内容により、幼児教育者としての企画・実践力を育てる領域の理解度（20%）、専門的技術習得度（20%）、「フィードバック能力」（3）獲得の程度（30%）、授業参加度（15%）、技術習得の努力度（15%）で評価する。</p>		
課題に対するフィードバックの方法	<p>提出されたレポートについては、コメント等を加え返却し、指導する</p>		
授業時間外学修	<p>予習（各授業回約30分）、復習（各授業回約30分）として、事業計画で示された内容を実施する。 テキストや資料を見直し、既習内容を確認する。（1時間） 教員と学生の相互評価の結果を踏まえ、自己評価すると共に既習内容の理解を深める。（1時間）</p>		
備考	<p>実務経験のある教員による授業科目である。 担当教員たちは、幼児教育の現場での表現活動に理解が深く、この授業を各々2～11年担当していて、遊び場作りの企画には経験が豊富である。豊富な経験を活かして具体的な事例も含めた授業を行う。</p>		
連絡先（質問等）	<p>オフィスアワー 高橋：月曜日 12時25分～12時50分 高桑：水曜日 12時25分～12時50分 花田：月曜日 12時25分～12時50分 白崎：水曜日 12時25分～12時50分 城山：（授業時にアナウンスを行う。） 木村：（授業時にアナウンスを行う。） その他、授業前後に、教室にて質問を受け付ける。</p>		

授業科目	子どもの生活と福祉		授業形態	演習	単位数	1 単位	
担当者	伊藤和雄、荒木隆俊、松田水月、宮地康子						
ナンバリング	E51S170	開講時期	1 年次前期	授業時間数	30 時間	授業回数	15 回
必修・選択	-			実務経験のある教員による授業科目		該当しない	
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1)理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。						○
	(2)専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。						
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1)基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。						○
	(2)実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。						
	(3)学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。						
授業の概要・方法	テキストや配布資料を用いて、児童福祉の理念や課題、児童家庭福祉施策の全体像を学ぶ。また、映像視聴やグループディスカッション等を通して児童のみならず高齢者・障がい者を含む社会福祉や地域保健について総合的に広く社会福祉や保健のあり方も理解する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育所の課題、高齢者・障がい者等の介護福祉士の課題、社会福祉協議会等に地域福祉の課題、保育所等による地域保健の課題をとりあげ、講義やグループディスカッションと報告・レポート等により説明できる。</li> <li>・「自分で考え、実践できる能力」(1)「現状をしっかりとらえることができる」を身につける。</li> </ul>						
授業計画	第1回	テーマ	オリエンテーション (担当 伊藤・荒木・松田(水)・宮地)				
		内容	児童福祉の理念と課題、児童家庭福祉施策の全体像を学ぶ。				
		授業時間外学修	予習： シラバスを熟読する。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる				
	第2回	テーマ	保育現場で気になる子 (担当 伊藤)				
		内容	障害児保育の歴史的変遷、ノーマライゼーション、インクルーシブ保育を学ぶ。				
		授業時間外学修	予習： 事前配付資料を読む。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。				
	第3回	テーマ	保育所の歴史とアメリカの現状 (担当 伊藤)				
		内容	保育における多文化共生を考える。				
		授業時間外学修	予習： 事前配付資料を読む。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。				
	第4回	テーマ	介護支援専門員の在宅介護 (担当 伊藤)				
		内容	介護支援専門員、居宅介護支援事業所の役割と機能を学ぶ。				
		授業時間外学修	予習： 事前配付資料を読む。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。				
	第5回	テーマ	介護現場の現状と課題 (担当 伊藤)				
		内容	DVD視聴により介護福祉施設、介護サービスを学ぶ。				
		授業時間外学修	予習： 事前配付資料を読む。				

		学修	復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
	第6回	テーマ	福祉保健医療の連携と課題① (担当 松田 (水))
		内容	母子保健の意義、母子保健のあゆみ、母子保健施策、サービスの動向を学ぶ。
		授業時間外学修	予習： 事前配付資料を読む。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
	第7回	テーマ	福祉保健医療の連携と課題② (担当 宮地)
		内容	児童健全育成の意義、概要、課題を学ぶ。
		授業時間外学修	予習： 事前配付資料を読む。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
	第8回	テーマ	児童福祉施設としての保育所 (担当 伊藤)
		内容	保育所の機能と役割を学ぶ。
		授業時間外学修	予習： 事前配付資料を読む。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
	第9回	テーマ	保育するって何だろう① (担当 伊藤)
		内容	児童福祉施設の区分と機能を学ぶ。
		授業時間外学修	予習： 事前配付資料を読む。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
	第10回	テーマ	保育するって何だろう② (担当 荒木)
		内容	保育の現場で活かす介護の視点、異世代交流を学ぶ。
授業時間外学修		予習： 事前配付資料を読む。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。	
第11回	テーマ	児童虐待って何だろう① (担当 伊藤)	
	内容	児童虐待の種類、対処方法を学ぶ。	
	授業時間外学修	予習： 事前配付資料を読む。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。	
第12回	テーマ	児童虐待って何だろう② (担当 伊藤)	
	内容	DVD 視聴により虐待、いじめの早期発見を考える。	
	授業時間外学修	予習： 事前配付資料を読む。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。	
第13回	テーマ	事例研究レポート① (担当 伊藤)	
	内容	事例を基に虐待への対応、関係機関の機能と役割を学ぶ。	
	授業時間外学修	予習： 事前配付資料を読む。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。	
第14回	テーマ	事例研究レポート② (担当 伊藤)	
	内容	グループディスカッション、報告を行う。	
	授業時間外学修	予習： 事前配付資料を読む。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。	
第15回	テーマ	まとめ (小テスト) (担当 伊藤・荒木)	
	内容	これまでの授業の振り返り、ワークシートを用いてまとめを行う。	

	回	授業時間外 学修	予習： 既習内容を振り返り、疑問点、理解不足の点をまとめる。 復習： 疑問点、理解不足の点について既習内容を確認する。
	第 16 回		定期試験
教科書・テキスト	目で見える児童福祉 2022 (公益社団法人 児童育成協会 中央法規出版)		
参考書・参考資料等	保育所保育指針(平成 29 年 3 月告示 厚生労働省) また、授業中に適宜資料を配布する。		
成績評価の 方法・基準	小テストと提出してもらったレポートにより、領域理解の程度(60%)、「自分で考え、実践できる能力」(1) 獲得の程度(25%)、授業参加度(15%)で評価する。		
課題に対する フィードバックの方法	授業後に提出されたレポートについては、次回の授業にて解説する。定期試験については、採点后講評する。		
授業時間外学修	予習(各授業回約 30 分)、復習(各授業回約 30 分)として、授業計画で示された内容を実施する。		
備考	—		
連絡先 (質問等)	<p>オフィスアワー</p> <p>伊藤：火曜日 12 時 25 分～12 時 50 分</p> <p>荒木：月曜日 12 時 25 分～12 時 50 分</p> <p>松田：月曜日 12 時 25 分～12 時 50 分</p> <p>宮地：月曜日 12 時 25 分～12 時 50 分</p> <p>その他、授業前後に教室にて質問を受け付ける。</p>		

授業科目	介護福祉総論 I		授業形態	演習	単位数	1 単位	
担当者	伊藤和雄、荒木隆俊						
ナンバリング	E51S171	開講時期	1 年次後期	授業時間数	30 時間	授業回数	15 回
必修・選択	福祉コース:必修			実務経験のある教員による授業科目		該当する	
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1)理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。						○
	(2)専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。						
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1)基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。						○
	(2)実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。						
	(3)学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。						
授業の概要・方法	テキストや配布資料を用いて、高齢者保健福祉制度、介護保険制度、介護をめぐる現状と課題を学ぶ。また、映像視聴やグループディスカッション等を通して介護福祉施設の機能、役割、介護福祉士の専門性、倫理、職務を理解する。福祉コースでは、介護福祉サービスの実践方法を学び、幼児教育にも結びつく視点を理解する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護をめぐる現状と課題を説明できる。</li> <li>・介護福祉制度のための基礎的知識を説明できる。</li> <li>・「自分で考え、実践できる」を展開していくための視点を説明できる。</li> <li>・「自分で考え、実践できる能力」(1)「現状をしっかりとらえることができる」を身につける。</li> </ul>						
授業計画	第 1 回	テーマ	介護現場の理解①				(担当 伊藤・荒木)
		内容	介護問題の背景と介護福祉士制度を学ぶ。				
		授業時間外学修	予習： シラバスを熟読する。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。				
	第 2 回	テーマ	介護現場の理解②				(担当 伊藤)
		内容	高齢者に対する居宅系サービスの提供の場とその特性を学ぶ。				
		授業時間外学修	予習： 事前配付資料を読む。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。				
	第 3 回	テーマ	介護現場の理解③				(担当 伊藤)
		内容	高齢者に対する入所系サービスの提供の場とその特性を学ぶ。				
		授業時間外学修	予習： 事前配付資料を読む。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。				
	第 4 回	テーマ	介護現場の理解④				(担当 伊藤)
		内容	障害者に対する居宅系サービスの提供の場とその特性を学ぶ。				
		授業時間外学修	予習： 事前配付資料を読む。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。				
	第 5 回	テーマ	介護現場の理解⑤				(担当 伊藤)
		内容	障害者に対する入所系サービスの提供の場とその特性を学ぶ。				
		授業時間外学修	予習： 事前配付資料を読む。				

		学修	復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。	
	第6回	テーマ	高齢者保健福祉制度の理解①	(担当 伊藤)
		内容	後期高齢者医療制度を学ぶ。	
		授業時間外学修	予習： 事前配付資料を読む。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。	
	第7回	テーマ	高齢者保健福祉制度の理解②	(担当 伊藤)
		内容	高齢者保健推進十か年戦略を学ぶ。	
		授業時間外学修	予習： 事前配付資料を読む。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。	
	第8回	テーマ	介護福祉サービスの意義	(担当 伊藤)
		内容	介護サービスの歴史的背景と時代背景を学ぶ。	
		授業時間外学修	予習： 事前配付資料を読む。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。	
	第9回	テーマ	介護福祉サービスの視点	(担当 荒木)
		内容	介護における尊厳保持と自立支援の理論を学ぶ。	
		授業時間外学修	予習： 事前配付資料を読む。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。	
	第10回	テーマ	介護保険制度①	(担当 伊藤)
		内容	介護保険制度創設の目的、しくみを学ぶ。	
授業時間外学修		予習： 事前配付資料を読む。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。		
第11回	テーマ	介護保険制度②	(担当 伊藤)	
	内容	介護保険制度にかかわる組織とその役割、専門職の役割を学ぶ。		
	授業時間外学修	予習： 事前配付資料を読む。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。		
第12回	テーマ	介護予防	(担当 伊藤)	
	内容	介護予防給付サービス、地域支援事業を学ぶ。		
	授業時間外学修	予習： 事前配付資料を読む。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。		
第13回	テーマ	介護職員の職業倫理と健康管理	(担当 伊藤)	
	内容	日本介護福祉士会倫理綱領、こころとからだの健康管理を学ぶ。		
	授業時間外学修	予習： 事前配付資料を読む。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。		
第14回	テーマ	コミュニケーション技術	(担当 荒木)	
	内容	コミュニケーションの目的、方法、促す環境、技法と実際を学ぶ。		
	授業時間外学修	予習： 事前配付資料を読む。 復習： 授業の見直し、要点や疑問点をまとめる。		
第15回	テーマ	まとめ (小テスト)	(担当 伊藤・荒木)	
	内容	これまでの授業の振り返り、ワークシートを用いてまとめを行う。		

	回	授業時間外 学修	予習： 既習内容を振り返り、疑問点、理解不足の点をまとめる。 復習： 疑問点、理解不足の点について既習内容を確認する。
	第 16 回		定期試験
教科書・テキスト	配布資料		
参考書・参考資料等	介護福祉士 国試ナビ (中央法規出版社)		
成績評価の方法・基準	小テストと提出してもらった課題レポートにより、領域理解の程度 (60%)、「自分で考え、実践できる能力」(1)獲得の程度 (25%)、授業参加度 (15%) で評価する。		
課題に対するフィードバックの方法	授業後に提出されたレポートについては、次回の授業にて解説する。定期試験については、採点后講評する。		
授業時間外学修	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予習 (各授業回約 30 分)、復習 (各授業回約 30 分) として、授業計画で示された内容を実施する。</li> <li>・定期試験に向けてテキストや資料を見直し、既習内容を確認する。(約 50 分)</li> <li>・定期試験の結果を踏まえ、自己評価すると共に既習内容の理解を深める。(約 3 時間)</li> </ul>		
備考	<p>実務経験のある教員による授業科目である。</p> <p>伊藤：介護老人福祉施設で 26 年間勤務し介護業務、相談援助業務、介護計画作成業務に携わっていた。</p> <p>荒木：介護老人福祉施設で 11 年間介護業務等に従事した実務経験を持つ。</p>		
連絡先 (質問等)	<p>オフィスアワー</p> <p>伊藤：火曜日 12 時 25 分～12 時 50 分</p> <p>荒木：月曜日 12 時 25 分～12 時 50 分</p> <p>その他、授業前後に、教室にて質問を受け付ける。</p>		

授業科目	介護福祉総論Ⅱ		授業形態	演習	単位数	1単位		
担当者	荒木隆俊、松田水月、宮地康子							
ナンバリング	E52S172	開講時期	2年次前期	授業時間数	30時間	授業回数	15回	
必修・選択	福祉コース:必修		実務経験のある教員による授業科目			該当する		
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1)理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。						○	
	(2)専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。							
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1)基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。						○	
	(2)実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。							
	(3)学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。							
授業の概要・方法	配布資料を用いて、介護分野について学び、福祉を取り巻く現状について理解を深める。 介護保険法が施行されて、介護現場は大きく変化し、諸問題も山積している。このような状況の中、対象者とどんな関わりをもって接すればいいのかを考えた時、知識、技術を高めていくことはもちろん、人間理解も視野に入れながら、幼児教育の視点と共通する視点を探究していく。							
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護をめぐる現状と課題を説明できる。</li> <li>・介護サービスの基本的視点を説明できる。</li> <li>・介護者の基本姿勢を身につける。</li> <li>・幼児教育と共通する援助の視点を持つことができる。</li> <li>・「コミュニケーション能力」(1)「人間や人間の生活、社会についての知識・理解」を身につける。</li> </ul>							
授業計画	第1回	テーマ	介護現場の現状(措置制度と介護保険)				(担当 荒木)	
		内容	措置制度から介護保険へと移行した介護現場の歴史に触れ、介護現場の移り変わりについて学ぶ。					
		授業時間外学修	予習：シラバスを熟読し、授業イメージを膨らませる。 復習：授業内容を見直し要点をプリントにまとめる。					
	第2回	テーマ	介護対象者の理解				(担当 荒木)	
		内容	介護対象者の現状(在宅・施設)を学ぶ。					
	第3回	授業時間外学修	予習：「措置」と「介護保険」について調べておく。 復習：授業内容を見直し要点プリントにまとめる。					
		テーマ	身につけたい能力①				(担当 荒木)	
	第4回	内容	コミュニケーション能力について学ぶ。					
		授業時間外学修	予習：これまでの学びから自身のコミュニケーションを行う際に留意していることについて整理しておく。 復習：授業内容を見直し要点をプリントにまとめる。					
		テーマ	身につけたい能力②				(担当 荒木)	
	第4回	内容	観察技術について学ぶ。					
		授業時間外学修	予習：これまでの学びから自身の観察を行う際に留意していることについて整理しておく。					

		復習：授業内容を見直し要点をプリントにまとめる。
第5回	テーマ	身につけたい能力③ (担当 荒木)
	内容	「創造」と「想像」を理解し、学びと課題を統合させる。
	授業時間外学修	予習：「創造」、「想像」とはどういう意味か調べておく。 復習：授業内容を見直し要点をプリントにまとめる。
第6回	テーマ	身につけたい能力④ (担当 荒木)
	内容	「失うもの」という演習を通して、介護対象者の心を理解する。
	授業時間外学修	予習：対象者の心はどのような心理状態になっているか整理しておく。 復習：授業内容を見直し要点をプリントにまとめる。
第7回	テーマ	サービス提供の基本視点 (小テスト) (担当 荒木)
	内容	これまでの学びから、介護者の援助の視点を探究する。
	授業時間外学修	予習：これまでの学びから、援助の視点を探究する。 復習：授業内容を見直し要点をプリントにまとめる。
第8回	テーマ	基本的介護技術(実技)① (担当 宮地・松田水)
	内容	ベッドメイキング
	授業時間外学修	予習：図書館を利用し、参考書等からベッドメイキングの留意点を整理しておく。 復習：授業内容を見直し要点をプリントにまとめる。
第9回	テーマ	基本的介護技術(実技)② (担当 宮地・松田水)
	内容	移動の介助
	授業時間外学修	予習：図書館を利用し、参考書等から移動介助の際の留意点を整理しておく。 復習：授業内容を見直し要点をプリントにまとめる。
第10回	テーマ	基本的介護技術(実技)③ (担当 松田水・宮地)
	内容	排泄の介助
	授業時間外学修	予習：図書館を利用し、参考書等から排泄介助の際の留意点を整理しておく。 復習：授業内容を見直し要点をプリントにまとめる。
第11回	テーマ	基本的介護技術(実技)④ (担当 松田水・宮地)
	内容	食事の介助
	授業時間外学修	予習：図書館を利用し、参考書等から食事介助の際の留意点を整理しておく。 復習：授業内容を見直し要点をプリントにまとめる。
第12回	テーマ	基本的介護技術(実技)⑤ (担当 松田水・宮地)
	内容	衣服の着脱の介助
	授業時間外学修	予習：図書館を利用し、参考書等から衣服の着脱の介助の際の留意点を整理しておく。 復習：授業内容を見直し要点をプリントにまとめる。
第13回	テーマ	介護専門職者の職業倫理(幼児教育者の職業倫理と統合) (担当 荒木)
	内容	介護者の職業倫理について、幼児教育者の職業倫理と統合として考える。
	授業時間外学修	予習：介護者の職業倫理として考えられる視点を考えておく。 復習：授業内容を見直し要点をプリントにまとめる。
第	テーマ	社会福祉実習指導 (担当 荒木・宮地)

	14 回	内 容	社会福祉実習日誌の書き方や実習の諸注意を通して、共通する実習視点に再確認を行う。
		授業時間外 学修	予習：実習の心構えについて整理しておく。 復習：授業内容を見直し要点をプリントにまとめる。
	第 15 回	テーマ	まとめ(小テスト) (担当 松田水・宮地・荒木)
		内 容	これまでの授業の振り返りを行い、今後の課題を明確にする。
		授業時間外 学修	予習：これまでの授業を振り返り、理解不足の点を整理しておく。 復習：後期の学びに向けた学習課題を整理する。
	教科書・テキスト	適宜資料配布	
参考書・参考資料等	介護福祉士養成講座「介護の基本Ⅰ・Ⅱ」「生活支援技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」(中央法規出版)		
成績評価の 方法・基準	小テストと授業内容の理解を確認するプリントにより、「介護・福祉」に関する理解の程度(60%)、「自分で考え実践できる能力」(1)獲得の程度(25%)、授業参加度(15%)で評価する。		
課題に対する フィードバックの方法	小テストについては、確認後講評を行う。		
授業時間外学修	予習(各授業回 30分)、復習(各授業回 30分)として、授業計画で示した内容を実施する。 小テスト 学修(3時間)		
備 考	実務経験のある教員による授業科目である。 荒木は、介護老人福祉施設で11年間介護業務等に従事した実務経験を持つ。 松田は、病院、公的機関で9年間看護師、保健師として従事した実務経験を持つ。 宮地は、病院、介護老人福祉施設で9年間看護師として従事した実務経験を持つ。 その経験を踏まえ、具体的事例を交えて理解できるようサポートする。		
連絡先(質問等)	オフィスアワー 宮地・松田(水)・荒木：月曜日 12時25分～12時50分 対面での質問・回答を優先したいため適宜応じる。		

授業科目	介護技術演習		授業形態	演習	単位数	1	単位
担当者	宮地康子、松田水月、荒木隆俊						
ナンバリング	E51S173	開講時期	1年次後期	授業時間数	30	時間	授業回数 15 回
必修・選択	福祉コース:必修		実務経験のある教員による授業科目			該当する	
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1)理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。						○
	(2)専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。						
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1)基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。						○
	(2)実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。						
	(3)学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。						
授業の概要・方法	演習を通して、対象者の状況に応じた基本的な介護技術の提供を理解する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な介護技術を習得する。</li> <li>・介護技術の援助を通して、介護対象者の立場になって考える力を身につける。</li> <li>・互いに意見や気づきを共有し介護の視点について説明できる。</li> <li>・「コミュニケーション能力」(3)「伝え合う手段を見つけることができる」を身につける。</li> </ul>						
授業計画	第1回	テーマ	介護場面の理解 (担当 宮地 松田水)				
		内容	介護を必要とする場面について学ぶ。				
		授業時間外学修	予習： シラバスを熟読し、授業の全体像をイメージしてくる。 復習： 授業内容の要点をプリントにまとめる。				
	第2回	テーマ	ベッドメイキング① (実技) (担当 宮地・松田水)				
		内容	グループに分かれ、ベッドメイキングの技術を学ぶ。				
		授業時間外学修	予習： ベッドメイキングを行う際の留意点を整理しておく。 復習： 授業内容の要点をプリントにまとめる。				
	第3回	テーマ	ベッドメイキング② (実技) (担当 宮地・荒木)				
		内容	グループに分かれ、ベッドメイキングの技術を学ぶ。				
		授業時間外学修	予習： 前回の授業を通して、改善や工夫が必要である部分を振り返ってみる。 復習： 授業内容の要点をプリントにまとめる。				
	第4回	テーマ	体位交換 (実技) (社会福祉実習指導) (担当 荒木・宮地)				
		内容	グループに分かれ、体位交換を実施する。 (社会福祉実習施設の選定希望調査)				
		授業時間外学修	予習： 体位交換を行う際の留意点を整理しておく。 復習： 授業内容の要点をプリントにまとめる。				
	第5回	テーマ	衣服の着脱の介護① (実技) (担当 松田水・荒木)				
		内容	グループに分かれ衣服の着脱を実施する。				
		授業時間外学修	予習： 衣服の着脱を行う際の留意点を整理しておく。 復習： 授業内容の要点をプリントにまとめる。				
	第	テーマ	衣服の着脱の介護② (実技) 課題① (担当 松田水・宮地・荒木)				

6 回	内 容	グループに分かれ、衣服の着脱を実施する。
	授業時間外 学修	予習： 前回の授業を通して、改善や工夫が必要である部分を振り返ってみる。 復習： 授業内容の要点をプリントにまとめる。
第 7 回	テーマ	排泄の介護① (実技) (担当 宮地・松田水・荒木)
	内 容	グループに分かれ、排泄の介助を実施する。
第 8 回	授業時間外 学修	予習： 排泄の介助を行う際の留意点を整理しておく。 復習： 授業内容の要点をプリントにまとめる。
	テーマ	排泄の介護② (実技) (担当 宮地・松田水・荒木)
第 9 回	内 容	グループに分かれ、排泄の介助を実施する。
	授業時間外 学修	予習： 前回の授業を通して、改善や工夫が必要である部分を振り返ってみる。 復習： 授業内の要点をプリントにまとめる。
第 10 回	テーマ	食事の介護 (実技) (担当 宮地・松田水・荒木)
	内 容	グループに分かれ、食事の介助を実施する。
第 11 回	授業時間外 学修	予習： 食事の介助を行う際の留意点を整理しておく。 復習： 授業内容の要点をプリントにまとめる。
	テーマ	移動の介護① (実技) (担当 松田水・宮地・荒木)
第 12 回	内 容	グループに分かれ、移動の介助を実施する。
	授業時間外 学修	予習： 移動の介助を行う際の留意点を整理しておく。 復習： 授業内容の要点をプリントにまとめる。
第 13 回	テーマ	移動の介護② (実技) 課題② (担当 松田水・宮地・荒木)
	内 容	グループに分かれ、移動の介助を実施する。
第 14 回	授業時間外 学修	予習： 前回の授業を通して、改善や工夫が必要である部分を振り返ってみる。 復習： 授業内容の要点をプリントにまとめる。
	テーマ	緊急時の対応 (担当 宮地 松田水 荒木)
第 15 回	内 容	介護や保育の現場で実際に起こりうる事例をもとに緊急時の対応を学ぶ。
	授業時間外 学修	予習： 実習の体験等を通して、緊急時の対応について整理しておく。 復習： 授業内容の要点をプリントにまとめる。
第 16 回	テーマ	腰痛予防等の健康管理 (担当 宮地・松田水・荒木)
	内 容	ボディメカニクスについて学ぶ。
第 17 回	授業時間外 学修	予習： ボディメカニクスについて、留意点を整理しておく。 復習： 授業内容の要点をプリントにまとめる。
	テーマ	喀痰吸引、経管栄養について (担当 松田水・宮地)
第 18 回	内 容	喀痰吸引や経管栄養について、シミュレーターを用いて学ぶ。
	授業時間外 学修	予習： 喀痰吸引や経管栄養について、留意点を整理しておく。 復習： 授業内容の要点をプリントにまとめる。
第 19 回	テーマ	まとめ (担当 宮地・松田水・荒木)
	内 容	これまでの授業の振り返りを行い、今後の課題を明確にする。
第 20 回	授業時間外 学修	予習： これまでの授業で学んだことを確認、整理しておく。 復習： 授業内容を見直し、次年度の学びに向けた学習課題をプリントにまとめる。

教科書・テキスト	適宜資料配布
参考書・参考資料等	介護福祉士養成講座全巻（中央法規出版）
成績評価の方法・基準	課題と授業内容を理解するプリントにより、領域理解（60%）、「コミュニケーション能力」(3)獲得の程度（25%）、授業参加度（15%）で評価する。
課題に対するフィードバックの方法	課題提出後、講評を行う。
授業時間外学修	予習（各授業回 30 分）復習（各授業回 30 分）として、授業計画で示した内容を実施する。
備考	<p>実務経験のある教員による授業科目である。</p> <p>宮地は、病院、介護老人福祉施設にて 9 年間看護師として業務に従事した実務経験を持つ。</p> <p>松田（水）は、病院、公的機関に 9 年間看護師、保健師として業務に従事した経験を持つ。</p> <p>荒木は、介護老人福祉施設で 11 年間介護業務等に従事した実務経験を持つ。</p> <p>その経験を踏まえ、具体的事例を交えて理解できるようサポートする。</p>
連絡先（質問等）	<p>オフィスアワー</p> <p>宮地・松田（水）・荒木：月曜日 12 時 25 分～12 時 50 分</p> <p>対面での質問・回答を優先したいため適宜応じる。</p>

授業科目	社会福祉実習		授業形態	実習	単位数	2	単位		
担当者	荒木隆俊、宮地康子、実習施設職員								
ナンバリング	E52P174	開講時期	2年次前期	授業時間数	80	時間	授業回数	-	回
必修・選択	福祉コース:必修			実務経験のある教員による授業科目			該当する		
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1)理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。 (2)専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。							○	
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1)基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。							○	
	(2)実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。								
	(3)学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護対象者の理解及び基本的な介護技術の習得と援助視点について理解する。</li> <li>・社会人としての自覚も含め、自己の適正能力を身につける。</li> <li>・真の人間理解を追求し広い視野と洞察力を身につける。</li> <li>・「自分で考え、実践できる能力」(1)「現状をしっかりとらえることができる」能力を身につける。</li> </ul>								
授業計画	実習内容 <ul style="list-style-type: none"> <li>・施設の機能の理解。</li> <li>・介護対象者の理解。</li> <li>・基本的な介護技術の修得を含めた援助全般への理解。</li> <li>・施設職員の理解及び、職員の資質、能力等の理解。</li> <li>・介護の視点の理解。</li> <li>・自己の適正能力を探る。</li> </ul>								
	授業時間外学修	予習： 事前に実習施設の種別、機能等について調べる。 学習課題を明確にし、体調管理も含めた実習準備を行う。 復習： 実習日誌の読み返しを行う。							
教科書・テキスト	実習ノート（羽陽学園短期大学実習委員会編）								
参考書・参考資料等	なし。								
成績評価の方法・基準	施設からの実習評価及び実習日誌により、介護全般に対する領域の理解の程度(20%)、専門的技能の修得度(40%)、「自分で考え、実践できる能力」(1)の獲得程度(30%)、授業参加度(10%)で評価する。								
課題に対するフィードバックの方法	実習後に、実習施設評価・各種提出物、出席状況等はすべてフィードバックし、講評を行う。								
授業時間外学修	実習日誌記入及び介護過程の展開記録の整理。								
備考	実務経験のある教員による授業科目である。 荒木は、介護老人福祉施設で11年間介護業務等に従事した実務経験を持つ。 宮地は、病院、介護老人福祉施設で9年間看護師として従事した実務経験を持つ。 各実習施設では、主として介護職員から指導を受ける。 何れも、実務経験を踏まえ、有意義な実習が展開できるよう連携をとりながらサポートする。								
連絡先（質問等）	実習巡回を行うので、その都度行う。その他、緊急の場合は、荒木を窓口にして電話で対応する。								

オフィスアワー 荒木・宮地：月曜日 12時25分～12時50分

授業科目	卒業研究		授業形態	演習	単位数	2	単位
担当者	専任教員						
ナンバリング	E52S175	開講時期	1 年次後期 ～ 2 年次後期	授業時間数	— 時間	授業回数	— 回
必修・選択	—			実務経験のある教員による授業科目		該当しない	
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1)理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。 (2)専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。						○
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1)基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。						○
	(2)実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。						
	(3)学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々なことに興味・関心や疑問を持つことができる力を身につける。</li> <li>・研究や論文の基本について理解することができる。</li> <li>・[1年次後期]「自分で考え、実践できる能力」(1)「現状をしっかりとらえることができる」を身につける。</li> <li>・[2年次前期]「フィードバック能力」(2)「見つけた課題について修正や改善をすることができる」を身につける。</li> <li>・[2年次後期]「学び続け、成長し続ける能力」(2)「実践の経験を再構成して、専門的知識・理解・技術へと高めることができる」を身につける。</li> </ul>						
授業の概要・方法 授業計画	<p>授業内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生各自が興味のある研究テーマを設定し、それぞれのテーマの専門の指導教員のもとで研究を進めるゼミ形式で実施する。</li> <li>・各ゼミの人数は 5～10 名程度であり、活動にはグループディスカッション、プレゼンテーション、フィールドワーク等を含む。</li> <li>・1年に1回学内外でセミナーを実施し、研修を深める。</li> <li>・研究成果は、2年次の12月に「卒業研究」として400字原稿用紙で30～50枚でまとめる。</li> <li>・「卒業研究」を要約したレジュメは、「研究集録」として発刊する。</li> </ul>						
	授業時間外 学修	<p>予習： 興味のあるテーマについて情報収集を行う。 各専任教員からの指示に従う。</p> <p>復習： 各専任教員からの指導、助言内容を研究活動に反映させ、研究内容の改善を行う。</p>					
教科書・テキスト	各専任教員からの指示に従う。						
参考書・参考資料等	各専任教員からの指示に従う。						
成績評価の方法・基準	「卒業研究」により、研究や論文の基本についての理解の程度(50%)、「自分で考え、実践できる能力」(1)、「フィードバック能力」(2)、「学び続け、成長し続ける能力」(2)獲得の程度(35%)、授業参加度(15%)で評価する。						

課題に対する フィードバックの方法	評価後に、講評等を行う。
授業時間外学修	各専任教員からの指示に従う。
備 考	—
連絡先（質問等）	オフィスアワーに関しては、学生便覧「オフィスアワー」を確認すること。 その他、「卒業研究」の授業前後に各専任教員の研究室にて質問を受け付ける。